

～ 初午といなり寿司のおはなし ～

今年の2月12日は初午（はつうま）です。
時期的に「節分」や「恵方巻」の陰に隠れてしまいがちですが、初午の縁起の良い食べ物といえば“いなり寿司”と言われています。
そのユニークないわれなど、意外と知らない初午のいろはを紹介していきます。

< 初午とは？ >

初午とは2月初めの午の日で、穀物の神様が稲荷山（伊奈利山）に降臨したのが和銅4年（711年）の初午であったことから、「お稲荷さん」の名でおなじみの稲荷神社の祭日として親しまれるようになりました。
稲荷神社の本社は、稲荷山の麓にある京都・伏見稲荷大社になります。



「稲荷」という言葉は「稲生り」に由来し、農村では「稲荷神」を祀っていました。

この風習と、稲荷神の使いとされる“キツネは家を守る”という考えが結びつき、稲荷信仰が広がりました。

今でも、全国の稲荷神社で豊作、商売繁盛、家内安全などを祈願する初午祭が行われています。

また2月の2回目の午の日を「二の午」、3回目を「三の午」といい、これらの日にも祭礼をする地方や、いずれかの日に祭礼をする地方もあるそうです。

< 稲荷神とキツネの関係は？ >

初午の行事が行われる有名な神社は、前述の通りお稲荷さんの総本山である京都の「伏見稲荷大社」で、毎年2月初午の日に「初午大祭」が執り行われています。
稲荷神社といえばキツネの像が建っていますが、それは“キツネは稲荷神の使い”とされたからだそうです。



古来、田の神は稲刈りが終わると山にのぼって山の神になり、春になると山からおりて田の神になると考えられてきました。

キツネは春がくると山からおりて田んぼのネズミを食べ、秋になると山へ帰ることから、稲荷神の使いであると考えられたそうです。

稲荷神社にはキツネの像が建っており、口に米蔵の鍵や鎌などを咥えています。

<油揚げ・いなり寿司の由来と東西の違い>

稲荷神社のキツネには、油揚げやいなり寿司が供えられていますが、そこにも理由があります。

キツネの好物はネズミですが（ネズミの油揚げという説もあるそうで・・・）、**殺生はタブー**とされたため、**大豆**でできた油揚げを供えるようになりました。

やがて、油揚げに稲荷神のおかげでもたらされた米（酢飯）を詰めるようになり、「稲荷寿司」「お稲荷さん」と呼ばれて親しまれるようになりました。

なお、**東西でいなり寿司の形状が違います。**

東日本では「米俵に見立てた俵型」をしています。西日本では「キツネの耳に見立てた三角形」が主流です。

形は違えど、いずれも稲荷信仰が反映されているのです。

また、東日本では「いなり寿司」、西日本では「お稲荷さん」と呼ぶ傾向が強いようです。

なお、初午には油揚げやいなり寿司の他にも行事食があります。

<初午団子>

養蚕の盛んな地域に多い。

初午には蚕の神様を祀る行事も行われたため、**繭（まゆ）**がたくさんできるようお願い、繭の形に作った団子を供える。

<しもつかれ>

栃木県を中心に北関東でみられる郷土料理で、鬼おろしですった大根やにんじん、鮭の頭、油揚げ、大豆、酒粕などを煮こんだもの。

<旗飴>

奈良県でみられる飴菓子。

旗をまきつけた棒の先に飴をつけたもので、商売をしている家が稲荷神社に供え、そのおさがりをもらうために、商売をしている家を「旗飴ちょうだい」と子ども達がまわる風習がある。

また、**初午に“寺子屋や私塾へ入門する習わし”**があったため、この日に**習い事**を始める風習もありました。



**「売・貸物件
不足しております！」**

好評につき、物件が不足中です
掲載料や面倒な手続きは必要ありません。
「ご依頼」を頂くだけで結構です。

<https://maruhiro2103.co.jp>

私たちは、土地や建物の仲介のみではなく、
声かけ頂ければ、何でもお役に立てます！

～土地・建物のよろず屋～



マルヒロ不動産(株)

名古屋市中村区横前町109番地

TEL: 052-413-4628

